

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	69 (分)	学 校 名	天竜高等学校春野校舎	校 長 名	渡邊 二三彦
------	--------	-------	------------	-------	--------

1 スクール・ミッション

一人ひとりの生徒を大切にするとともに、生徒が「信頼」「信用」「安心」して学ぶことができる天竜・磐周地区の普通科高校として、個に応じた教育、地域人材・企業・団体等との連携、協働による教育の推進を通して、夢や希望に向かって努力し自分らしく生きるとともに、人の役に立ち地域の文化・産業を支える人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
教師と生徒の磨き合いによる「春野らしさ」を備えた3つの人材を育成します。 ①自己を実現するために、夢や希望に向かって努力し続けようとする人材 ②他者の役に立つために、自分らしさを発揮して成長し続けようとする人材 ③地域の文化・産業を支えるために、社会に貢献し続けようとする人材 ☆リーダーとしてだけでなく、集団の支え手としても、広い視野を持って行動できる人材の育成を目指します。	生徒が「信頼」「信用」「安心」して学習することができる3つの学びを提供します。 ①徹底した個別指導により「わかる」を実現する学び ②温かく落ち着いた環境により「できる」を実感する学び ③地域との連携・協働により「なぜ」を追究する学び ☆学び直しや協働学習、ICT 端末を活用して、基礎基本の定着及び主体的に学習ができるようにします。 ☆一人ひとりが主役となる学校行事を行います。 ☆春野の地域資源を活用した探究活動を通して、社会性を養い、課題を発見し解決する能力を育みます。	自分・人・地域の3つを「リスペクト」する人を求めています。 ①自分を大切にし、目標に向かって誠実に努力しようとする人 ②他者を大切にし、人々と誠実に関わろうとする人 ③生活する地域を大切にし、地域の課題と誠実に向き合おうとする人 ☆基本的な生活習慣を身に付け、学校生活に積極的に取り組もうとする生徒を募集します。 ☆自他の個性を認め合い、ともに学ぶ仲間を大切にできる生徒を募集します。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 基礎・基本を重視した学習指導の徹底
- イ 基本的な生活習慣、規範意識の確立
- ウ 個に応じた進路指導の充実
- エ 部活動、特別活動、読書活動の充実
- オ 心身の健康の保持増進
- カ 信頼される学校づくりの推進と広報活動の充実
- キ 地域との連携、協働による探究活動の充実
- ク 危機管理意識の向上
- ケ 教職員の資質の向上と働き方改革の推進

様式第 1 号

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当 部署
ア	多様な生徒に対する学習指導体制を整え、基礎学力の向上を図る。	・ 年 1 回の研究授業の実施や「高校生のための学びの基礎診断」の分析を活用し、生徒の資質・能力に応じた授業内容の改善に取り組む。 ・ ICT 機器を適切に活用して、生徒が効率的に学習できるようにする。 ・ 教科や学年の ICT の活用事例を共有する機会を設け、さらなる ICT 活用のきっかけを作る。	・ 授業を通して新たな学びや成長を感じられる生徒の割合（90%以上） ・ 先生は丁寧に教えてくれていると答える生徒の割合（90%以上） ・ 先生は授業で ICT 機器（chromebook や iPad、プロジェクター）を活用していると答える生徒の割合（80%以上）	教務 副校長
		・ 基礎的な学習の指導手法を各教科で確認する。 ・ 各教科で家庭学習で行うべき内容を生徒に適切に提供する。 ・ 定期テスト前に家庭学習時間調査を実施し、目標設定、学習の習慣付けと振り返りを行う。	・ 家庭学習時間の平均（平日 45 分以上） （テスト前 90 分以上） ・ 家庭学習をしっかりと答える生徒の割合（70%） ・ 家庭学習時間調査（年間 4 回実施）	
イ	基本的な生活習慣を身につけ、他者をいたわり、人間関係を大事にする心を養い、問題行動の未然防止を図る。	・ 基本的な生活習慣が身につくよう個に応じた注意喚起を行う。 ・ 外部講師を招いて「人間関係づくり」や「コミュニケーション」について学ぶ機会を設ける。 ・ 集会時の講話により、他者をいたわり人間関係を大事にする意識を喚起する。	・ 安心して落ち着いた学校生活を送っていると答える生徒の割合（90%以上） ・ SST や HR 活動等により、コミュニケーション能力が高まったと答える生徒の割合（70%）	生徒・保健 教頭
		・ 1 年生を対象に情報モラル講座を実施する。 ・ 職員全体で生徒の情報を共有し、問題を抱える生徒を早期発見するとともに適切に対応できるよう協議する。 ・ ホームルーム、授業、部活動等で日常的に挨拶や言葉遣い、服装等の指導を行う。	・ 問題行動の件数を前年度より減少させる。 （令和 6 年度 2 件 3 名） ・ 挨拶や言葉遣いがしっかりと答える生徒の割合（90%）	

ウ	生徒一人ひとりに寄り添い、よりよい進路を見つけ、その実現を図る。	・面接週間を実施し、生徒一人ひとりの進路希望状況を把握する。 ・進路講話、進学補講・基礎学力補講等を実施し、環境整備を行う。 ・生徒、教職員、家庭が連携し、生徒一人ひとりが納得できる進路実現を果たす体制を構築する。	・進路についての指導が適切になされていると答える生徒の割合（85%以上） ・進路についての指導が適切に行われていると答える保護者の割合（90%以上）	進路
		・地元企業との連携や外部講師の招致、卒業生の活用を積極的に行うとともに、社会で起きていることや必要とされる人物像等への理解を深める機会を多く設ける。	・学年進行に応じて進路講話や企業・学校見学、進路ガイダンスを実施（年間3回以上）	
エ	環境を整え、部活動、特別活動、読書活動において、充実感が得られるよう指導する。	・運動部の試合や文化部の発表会等を広報し、学校全体で応援する雰囲気を醸成する。	・部活動に積極的に参加し充実していると答える生徒の割合（80%以上）	生徒・保健
		・生徒会執行部を中心に、生徒が主体となって企画・運営できる学校行事を実施する。（春祭祭・体育大会・球技大会等）	・学校行事が充実していると答える生徒の割合（85%以上）	
		・毎日の朝読書を実施する。 ・すべての生徒が、夏休み読書感想文を通して天竜文学賞に親しむよう指導する。	・朝読書の時間は読書に親しむのに役立っていると答える生徒の割合（80%以上）	総務・図書
オ	自己健康管理ができる生徒を育成するとともに、教育相談体制の充実を図る。	・健康管理ができる基礎作り（栄養面での充実を含めて）のため、個別指導を行う。 ・さまざまな機会を利用して、生徒・保護者に朝食の大切さ、健康管理の大切さを知らせる。	・保健関係たよりの発行（月1回） ・生徒の状況把握調査（年2回実施）	生徒・保健
		・気になる生徒の情報の共有化を図るため、生徒サポート委員会を実施する。 ・生徒の心のケアを充実させるために、スクールカウンセラー、通級、外部機関との連携を図る。	・先生は悩みや相談に親身になってくれると答える生徒の割合（85%以上） ・生徒サポート委員会（年20回程度開催）	教頭

カ	地域・保護者との連携を推進し、信頼される学校づくりを行う。	・地域活性化や社会貢献の活動への積極的な参加を促す。 ・特別養護老人施設「秋葉の苑」や地元幼稚園、春老連との連携事業を行う	・地域貢献や地域との連携活動に参加をしている生徒の割合 (50%以上)	教科・部活動
		・P T Aの学校行事等への見学を働きかける。	・保護者の行事等の見学率 (60%以上)	総務・図書
		・本校の教育活動を広報するため、地域に寄り添う「春校だより」を発行する。	・春校だより発行 (年間 4 回以上)	
		・学校の活動の様子をタイムリーに幅広く情報発信するため、H Pを積極的に活用する。	・H Pの更新 (毎月平均 6 回以上) ・学校便りやH Pを通して、学校の教育方針をわかりやすく理解することができると答える保護者の割合 (90%)	教頭
		・管理職、教務課、教科担当者等と連携を図り、学校経営計画並びに中長期を見据えた効果的な予算執行を行う。 ・法令遵守を徹底し適正な予算執行を行う。 ・定期的に校内を巡視し、老朽箇所や危険箇所を早期発見するとともに、必要な予算要求や改修を行う。	・監査・検査の文書指示・指摘件数 (0 件) ・校内での事故・災害箇所 (0 件)	事務
キ	地域資源を活用し、探究活動を通して社会性を育む。	・地域学等の探究活動を通して、地域の自然、産業、歴史、文化、信仰等について多角的な視点で捉える。 ・調べ学習や体験活動を地域の方々と協働で行う。 ・地域での体験活動に主体的に取り組み、探究の学習成果をまとめ、発表する。	・探究活動を仲間と協力しながら主体的に行ったと答える生徒の割合 (80%以上) ・校外での探究活動が有意義であったと答える生徒の割合 (80%以上)	学年
ク	校内の危機管理体制を整備するとともに、危機管理意識を向上させる。	・緊急連絡用メールの登録を推進する。 ・生徒の防災意識を高めるため、効果的な防災訓練を実施するとともに、地域防災への積極的な参加を促す。 ・定期的な施設の安全点検を通して、学校施設の安全性を確保する。	・緊急メール登録 100% (全家庭) ・防災訓練実施 (年間 3 回) ・施設安全点検実施 (年間 2 回)	副校長 教頭
ケ	研修を通じて教職員の資質の向上を図るとともに、教職員の働き方改革を推進する。	・教職員の資質能力向上、授業改善のための職員研修や職員相互の授業見学を実施する。 ・不祥事根絶研修を計画的に実施する。 ・教職員の働き方改革を推進し、I C Tの活用等により業務の精選、スリム化を図る。	・職員研修会の実施 年 5 回 ・不祥事根絶研修の実施 月 1 回 ・職員室の最終退出時間平均 18:30 以内 ・リバイス天竜による業務等の改善の取組	副校長